

Hirata

The Global Production Engineering Company

2017年3月期 決算説明資料

平田機工株式会社



I. 決算状況

2017年3月期 (2017年3月31日)

Hirata

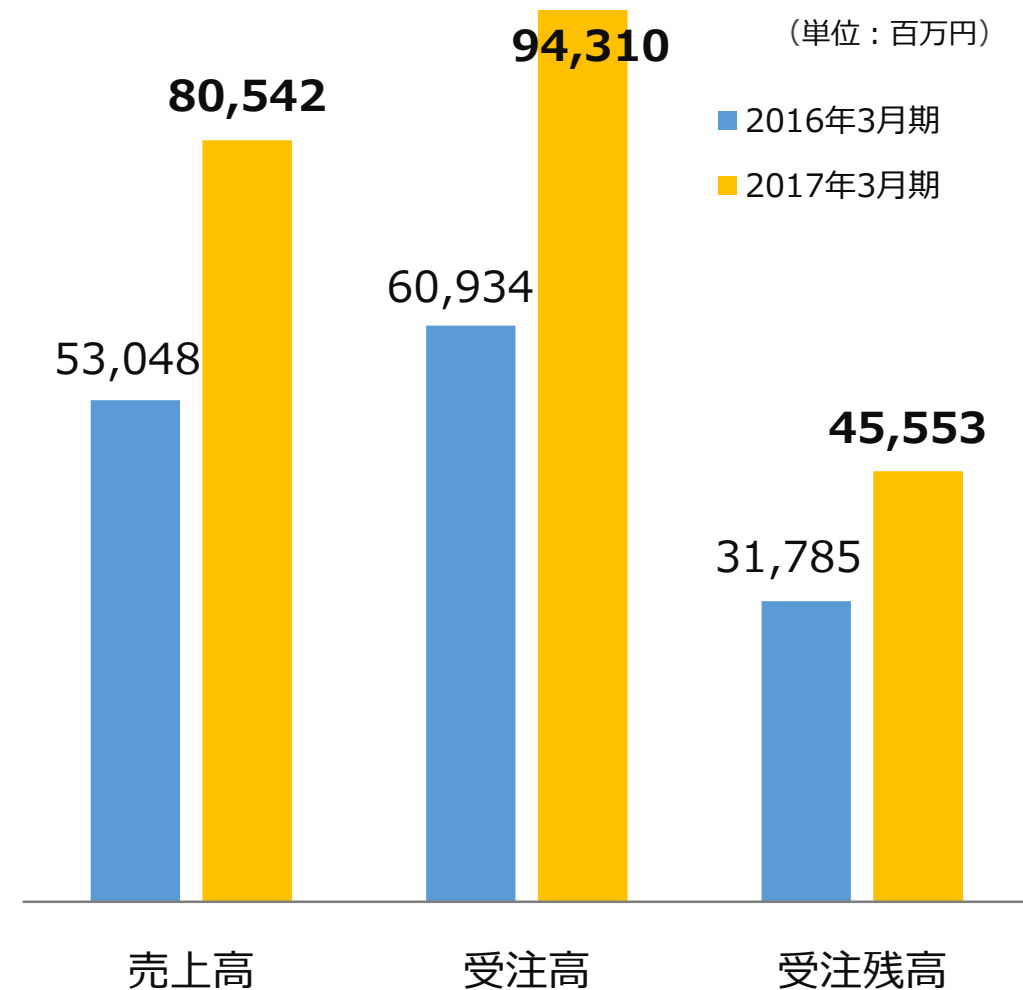


決算概要

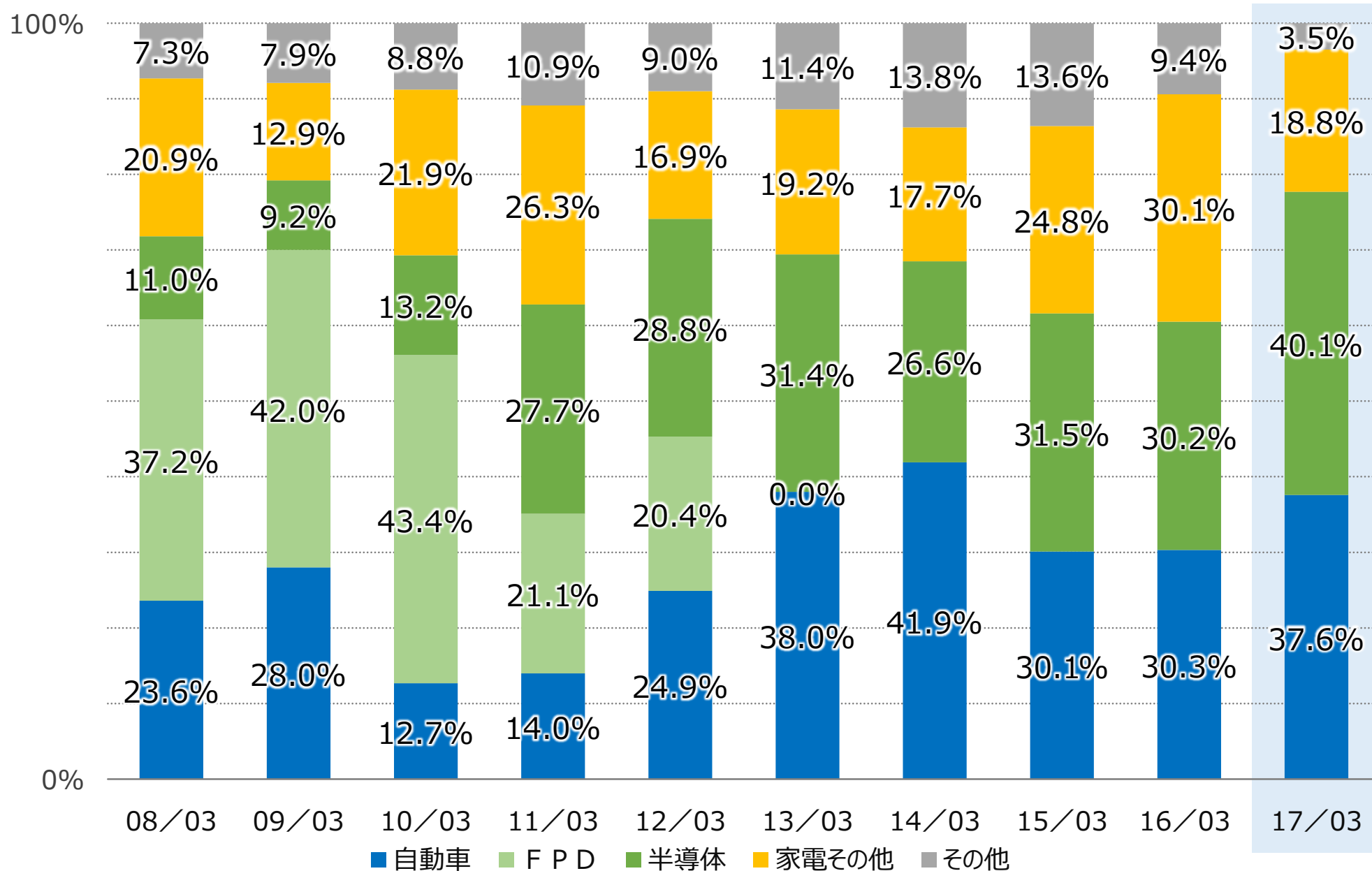
有機EL蒸着装置を中心に半導体関連生産設備事業が大幅増収となり、自動車関連生産設備事業においても、北米メーカー向けのパワートレイン関連設備に加え、電気自動車（EV）メーカーからの継続受注獲得などにより大幅増収。全体では、過去最高の売上高を計上。各利益とも同様に過去最高額を計上した。

(単位：百万円)

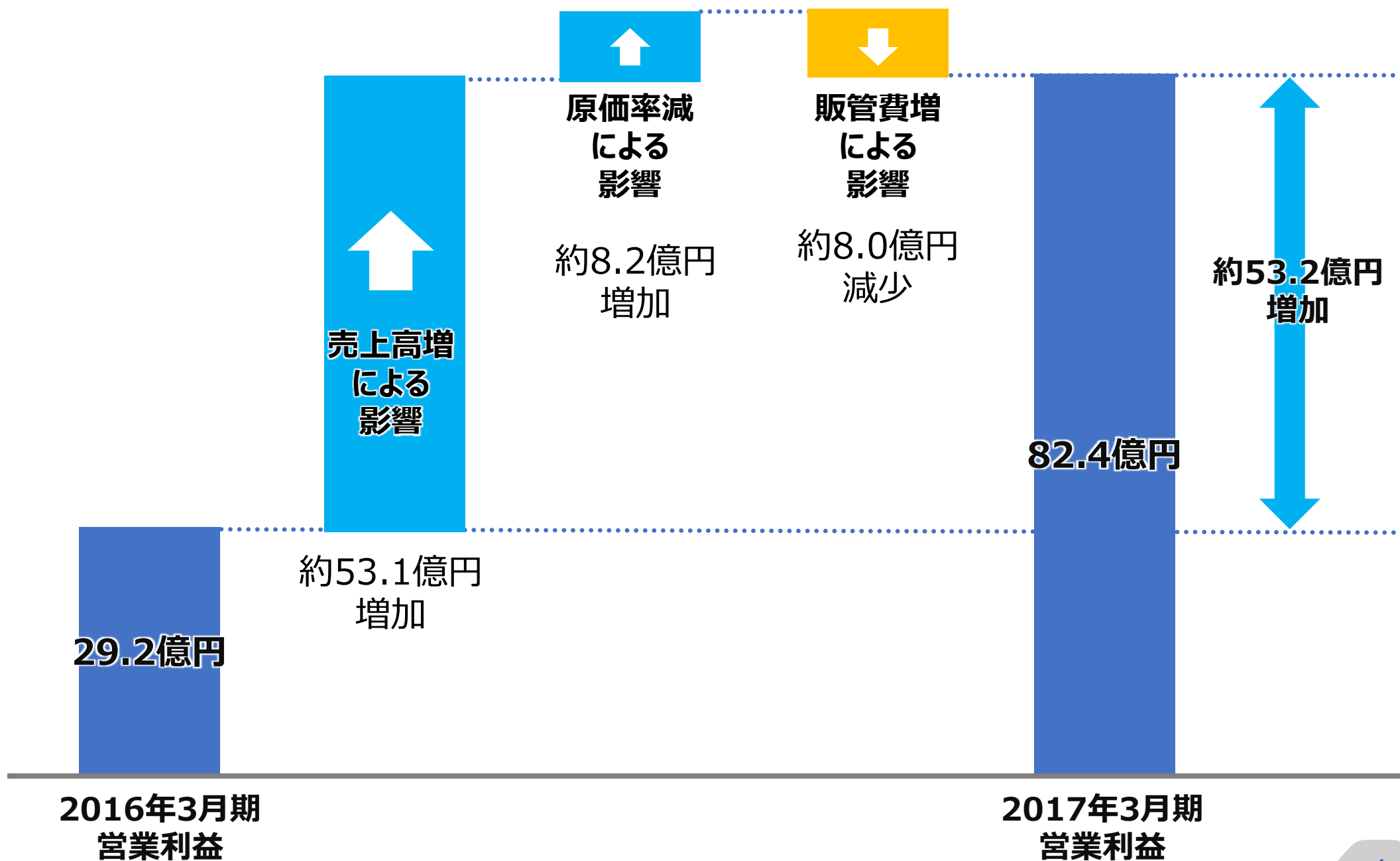
	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	増減率
売上高	53,048	80,542	+51.8%
営業利益	2,924	8,247	+182.0%
経常利益	2,825	8,039	+184.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,713	5,891	+243.9%



I 決算状況 事業部門別売上高構成比推移



※2013年3月期より、FPD関連事業は半導体関連事業に統合



貸借対照表

(単位：百万円)

資産	2016年 3月期	2017年 3月期	増減
流動資産	40,758	67,466	+26,707
固定資産	18,923	20,427	+1,504
有形固定資産	15,653	16,248	+595
無形固定資産	398	623	+225
投資その他資産	2,872	3,555	+682
資産合計	59,681	87,894	+28,212

負債	2016年 3月期	2017年 3月期	増減
流動負債	30,592	48,217	+17,625
固定負債	7,504	12,348	+4,844
負債合計	38,097	60,566	+22,469
純資産			
純資産合計	21,584	27,327	+5,743
自己資本比率	35.6%	30.7%	△4.9Point

主な増減項目

資産

受取手形及び売掛金	+24,629
現金及び預金	+679
機械装置及び運搬具	+580

負債・純資産

支払手形及び買掛金	+9,035
有利子負債	+8,674
前受金	+2,304

想定為替レート

(単位：円)

想定為替レート	2016年4月1日～3月31日 実績レート	2017年4月1日～ 想定レート
為替レート (対US \$)	108.82円	100.00円

株価推移

(単位：円)

株価推移	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年3月期		
			1月	2月	3月
最高	917	3,100	8,070	8,720	9,560
最低	560	782	6,090	7,350	7,650
末日	799	2,752	7,720	7,620	9,010

PER/PBR/ROE

PER/PBR/ROE	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期
PER (倍)	8.76	16.08	14.43
PBR (倍)	0.39	1.22	3.15
ROE (%)	4.70	8.00	24.4

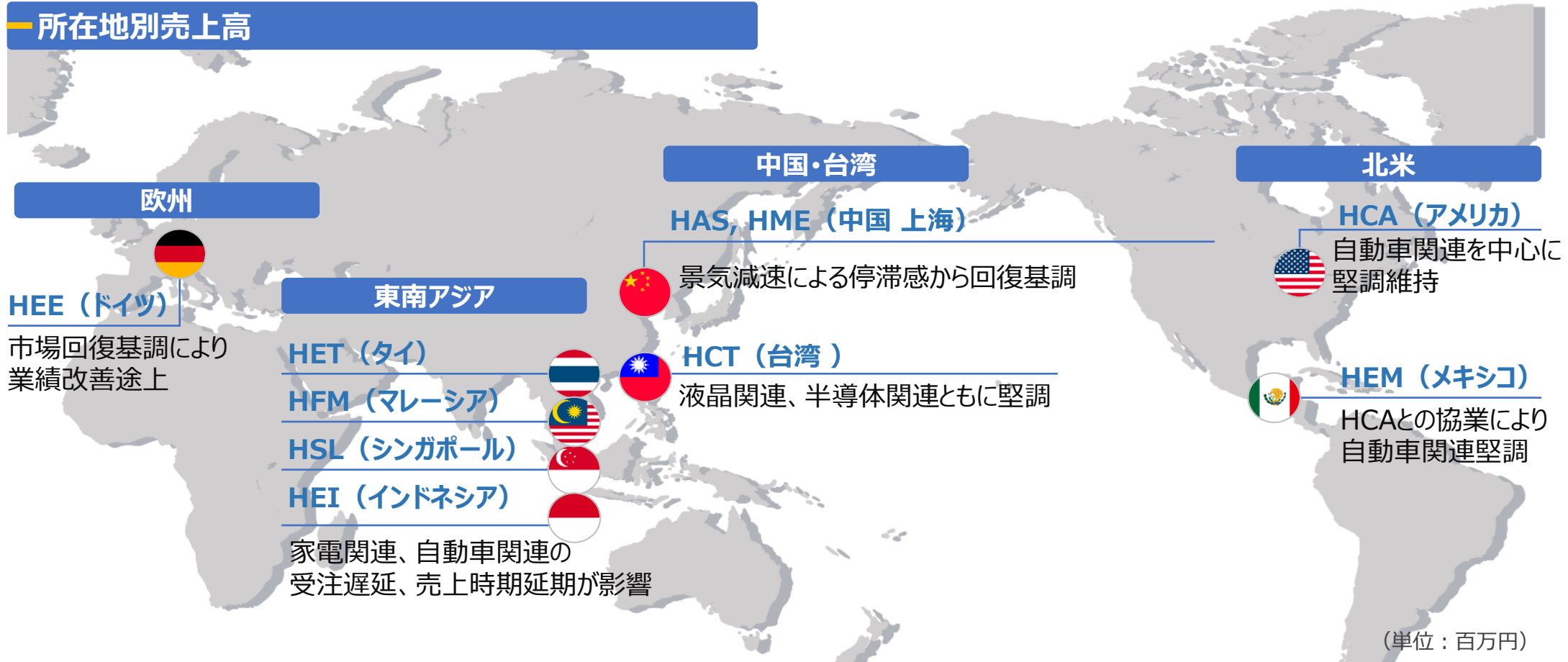
I 決算状況 事業部門別売上高・受注高・受注残高

(単位：百万円)

	事業部門	2016/3	2017/3	対前年同期比 増減率
売上高	自動車	16,065	30,267	+88.4%
	半導体	16,014	32,289	+101.6%
	家電関連およびその他	16,000	15,165	△5.2%
	その他	4,968	2,819	△43.3%
	合計	53,048	80,542	+51.8%
受注高	自動車	21,428	40,485	+88.9%
	半導体	21,153	36,389	+72.0%
	家電関連およびその他	13,717	13,155	△4.1%
	その他	4,634	4,279	△7.7%
	合計	60,934	94,310	+54.8%
受注残高	自動車	15,166	25,385	+67.4%
	半導体	8,813	12,912	+46.5%
	家電関連およびその他	6,888	4,877	△29.2%
	その他	916	2,377	+159.3%
	合計	31,785	45,553	+43.3%

I 決算状況 海外現地法人の状況

所在地別売上高



	日本		アジア		北米		欧州		合計	
	16/3	17/3	16/3	17/3	16/3	17/3	16/3	17/3	16/3	17/3
売上高	42,306	66,585	6,236	6,166	3,581	6,995	924	794	53,048	80,542
営業利益	2,662	6,824	112	683	164	707	44	52	2,983	8,267

※営業利益の合計はセグメント間の消去を行う前の金額を表示しています。

有機EL関連・電気自動車関連状況

● 有機EL関連設備、電気自動車関連生産設備ともに高い水準で受注・売上に寄与

(単位：百万円)

	2016年3月期		2017年3月期	
	受注高	売上高	受注高	売上高
有機EL関連	6,424	3,418	21,815	19,016
電気自動車 (EV) 関連	—	—	11,852	4,625

● 有機EL関連

半導体関連の売上のうち、有機EL関連は約58%以上と大きな割合を占めております。

受注高は前期比3倍強、売上高も5.5倍以上となりました。

● 電気自動車 (EV) 関連

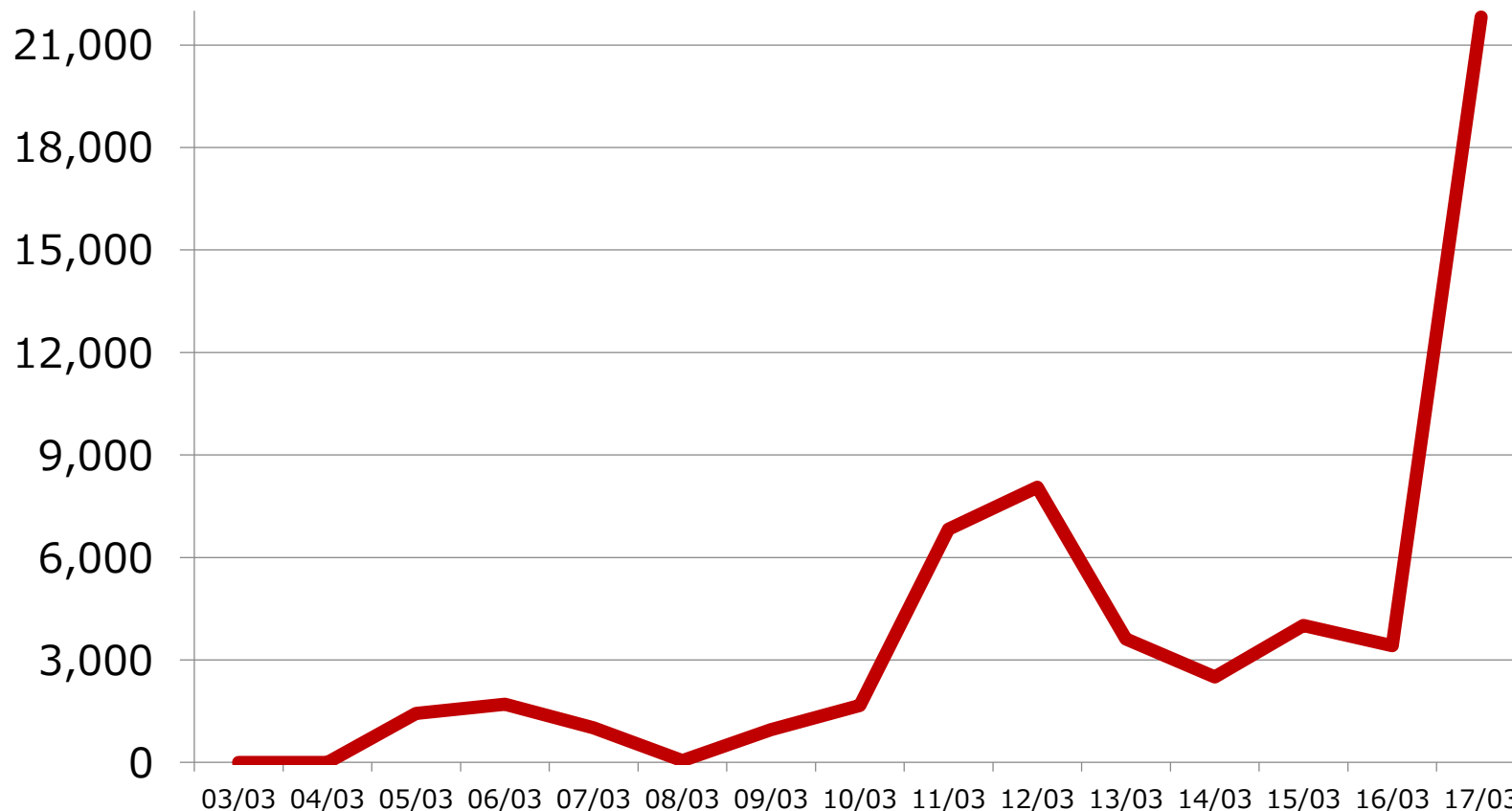
自動車関連の売上うち、電気自動車 (EV) 関連は約15%となっております。約63%を占めるパワートレインに続く割合となっており、業績に大きく貢献しております。

有機EL関連設備の売上高推移

●有機EL関連設備 15年間の売上実績（研究開発期間含まず）

売上高 19,016
受注高 21,815

（単位：百万円）



当社、有機EL関連設備の初売上は2003年。スマートフォンの有機ELパネル採用による設備投資が本格化した2017年3月期は、期末までに約218億円を受注し、約190億円を売り上げ、飛躍的な売上増を記録。

キヤノントッキ社と協同で有機EL設備の心臓部である真空蒸着装置を製造しており、今後も売上が高水準で継続する見込み。

有機EL関連設備の受注状況について

●有機EL関連の受注旺盛 今後も継続

スマートフォンの有機ELパネル採用による需要増に対応するために生産スペースを約4,400㎡に拡大し、2016年10月に完成、稼働開始。今後、さらに好調となる生産の増加に対応することができます。

当社は、有機EL生産設備の基板洗浄からウェットエッチング、塗布、真空薄膜プロセス、蒸着装置などの各工程を構成するさまざまな装置を生産する技術力を保有してします。今回の生産環境の増強により、さらに好調となる受注・生産に対応しております。



有機EL関連の生産設備の一例



赤枠が増築部分

自動車関連生産設備の受注状況について

●自動車関連は、電気自動車（EV）も加わり今後も堅調

北米市場は自動車販売が好調であり、それらを背景に北米自動車メーカーを中心に約225億円のトランスミッションなどのパワートレイン関連の生産設備を、加えて新たに電気自動車（EV）関連生産設備の受注いたしました。EVメーカーからの受注は2017年3月期の第2四半期からであり、累計受注額は118億円を超えております。

今後、温室効果ガス削減に向けた技術革新、設備投資はさらに強かに推進される見込みであり、低燃費エンジンや電気自動車関連設備の継続受注に努めます。



当社の工場内、自動車関連生産設備のイメージ

Ⅱ 市場動向および 2018年3月期業績の見通し

2017年3月期（2017年3月31日）

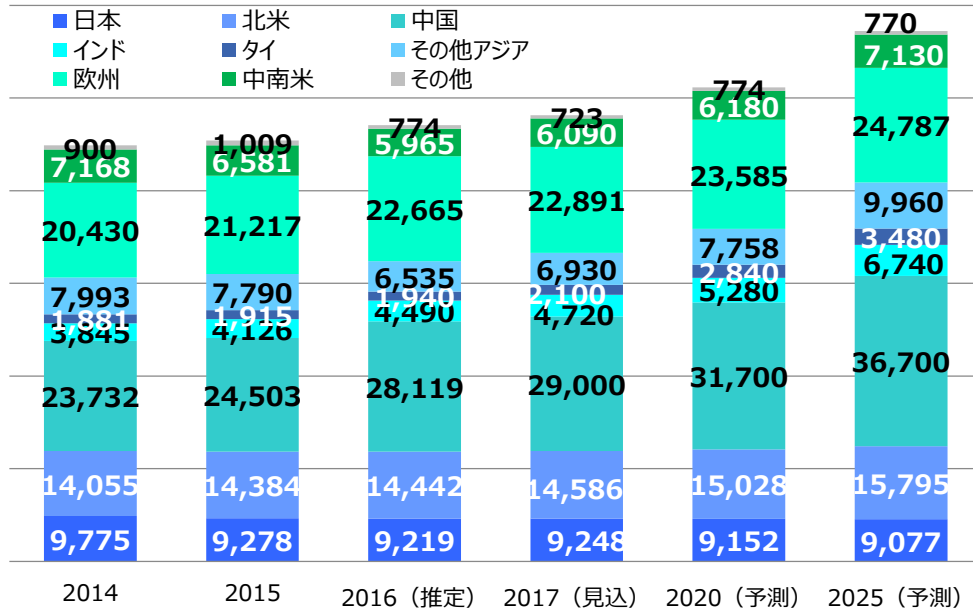
Hirata



Ⅱ 市場動向および2018年3月期業績の見通し

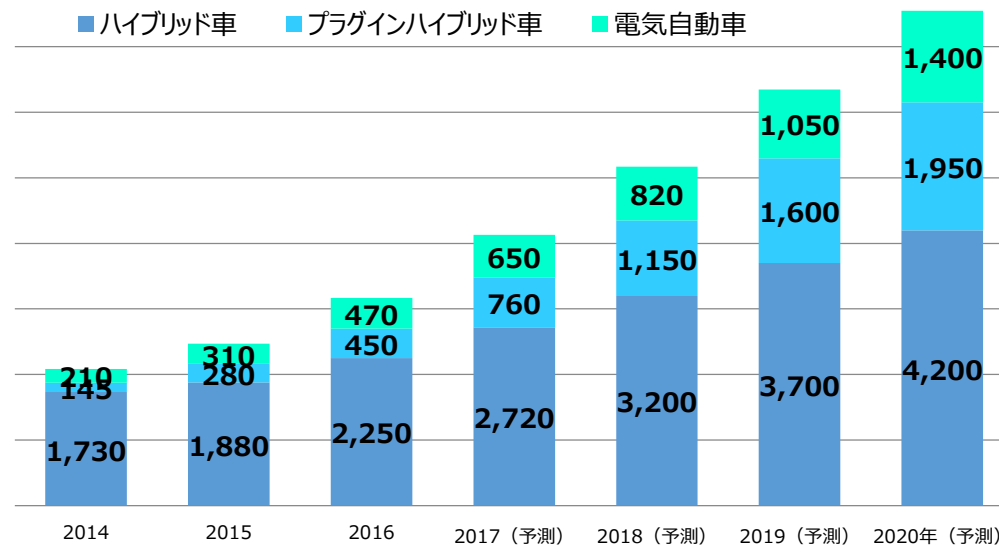
地域別自動車生産台数予測

(単位：千台)



電気自動車など環境対応車予測事情規模予測

(単位：千台)



自動車関連市場

■ 2017年以降

全体的に生産台数は増加し、ハイブリッド車や電気自動車などの、地球環境に配慮した燃量効率の高い、次世代の自動車市場の拡大がさらに進むと予測。

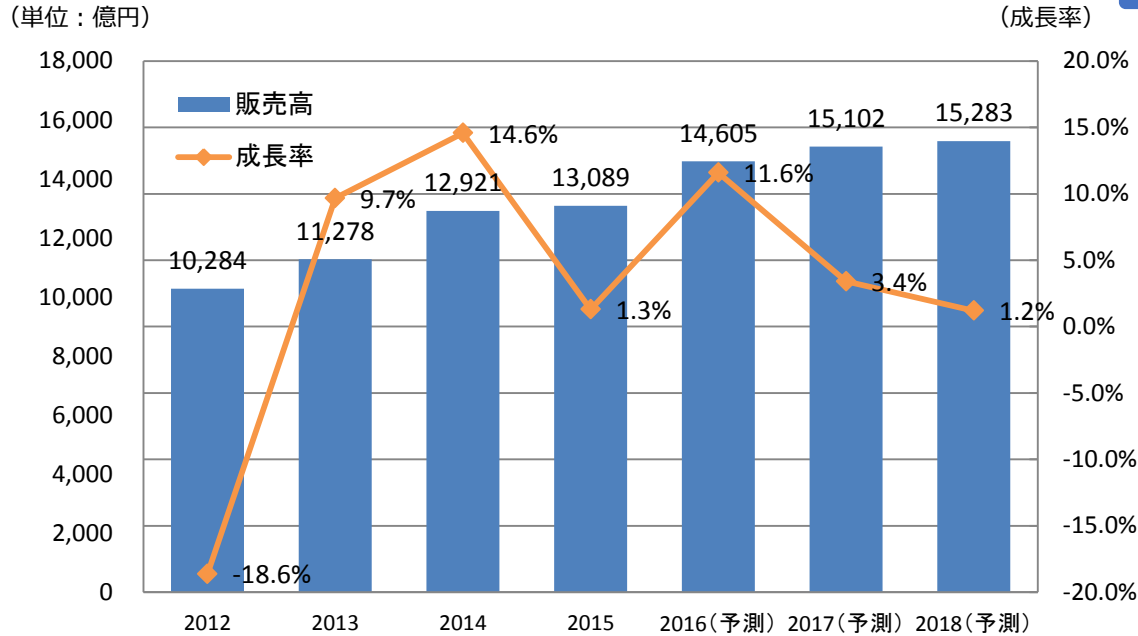
● 当社の見込み

北米メーカーのパワートレインをおよび日本国内の部品メーカーなどを中心に堅調な見込み。電気自動車（EV）の継続受注に努める。

出所 上段グラフ：調査会社S社資料
下段グラフ：2016年度版 主要デジタル機器、関連デバイス及び自動車関連機器の中長期的な市場分析 ～需要・生産・コストの現状分析と中長期予測～
イーエムデータサービス株式会社

II 市場動向および2018年3月期業績の見通し

半導体製造装置の販売高と成長率

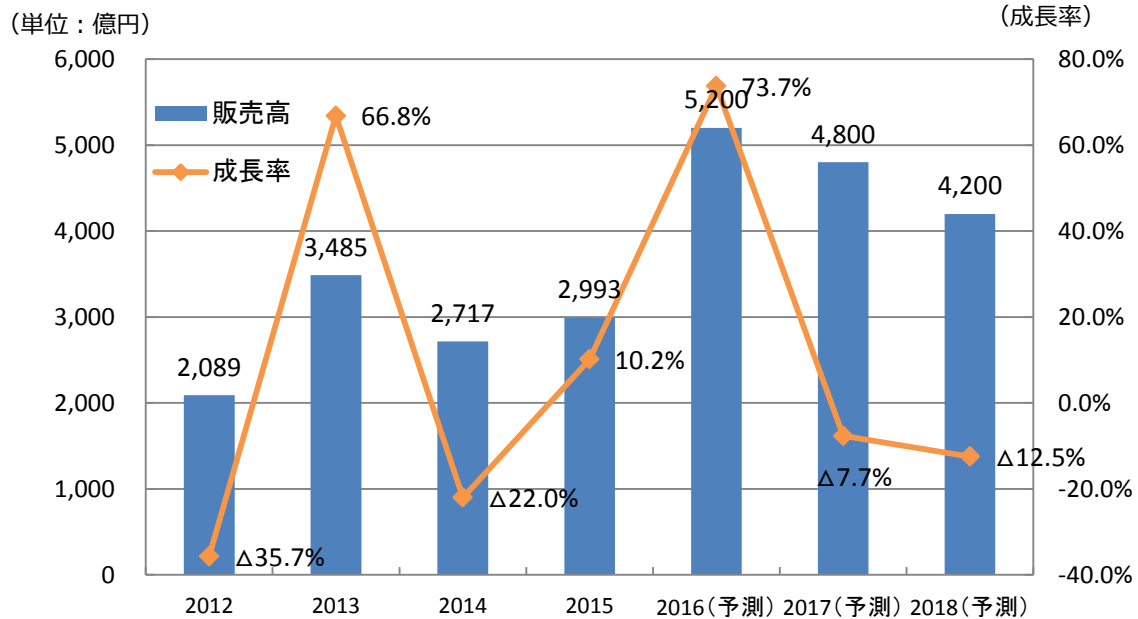


半導体・FPD関連市場

■ 2017年以降
 スマートフォンの高機能化、IoT関連、自動車の電動化に伴う需要増などから生産設備への投資は堅調、市場拡大が見込まれる。

● 当社の見込み
 半導体製造装置は、国内外から受注継続の見込み。コーターなどのFPD関連は好調に推移する見込み。

FPD製造装置の販売高と成長率

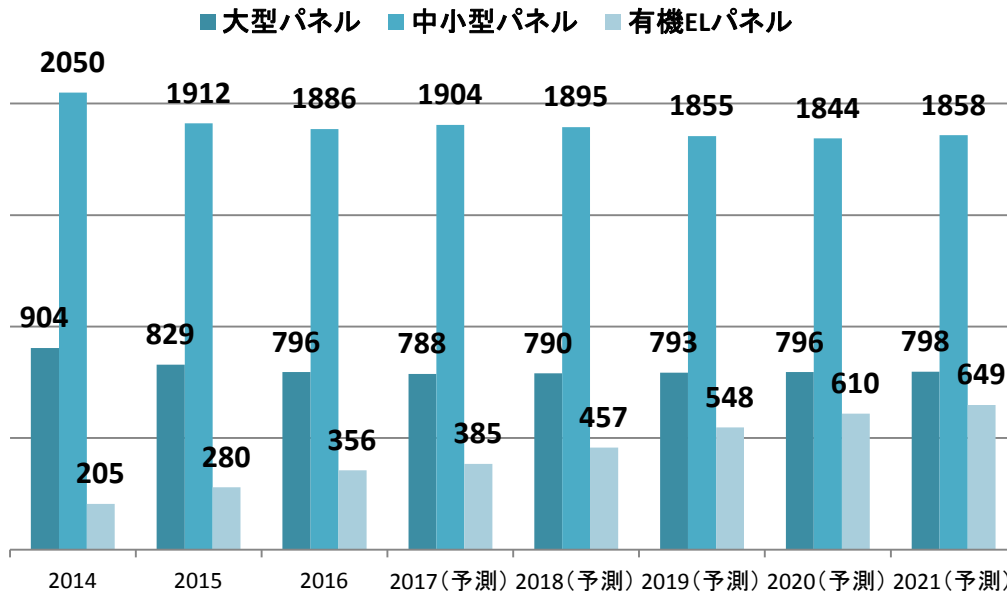


出所 2017年1月発表 半導体・FPD製造装置 需要予測(2016年度～2018年度)
 SEAJ 一般社団法人日本半導体製造装置協会

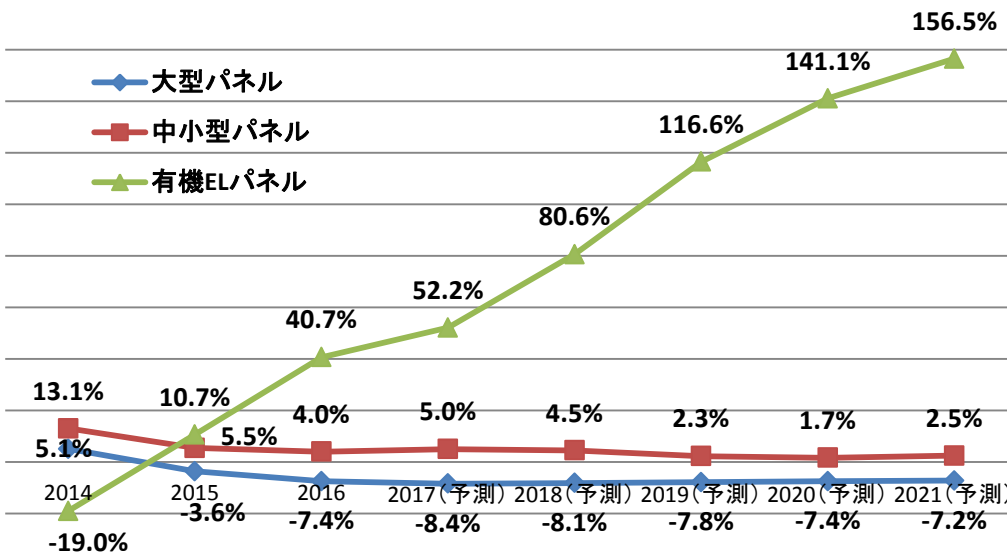
II 市場動向および2018年3月期業績の見通し

有機EL、液晶パネルのユニット製品・部品市場規模推移・予測

(単位：100万ユニット)



有機EL、液晶パネルのユニット製品・部品 対2013年比 成長率



有機EL・液晶パネル関連市場

■ 2017年以降

中小型パネルは縮小し、スマートフォンを中心にヘッドマウントディスプレイやテレビなどへの有機ELの採用が拡大する見込み。

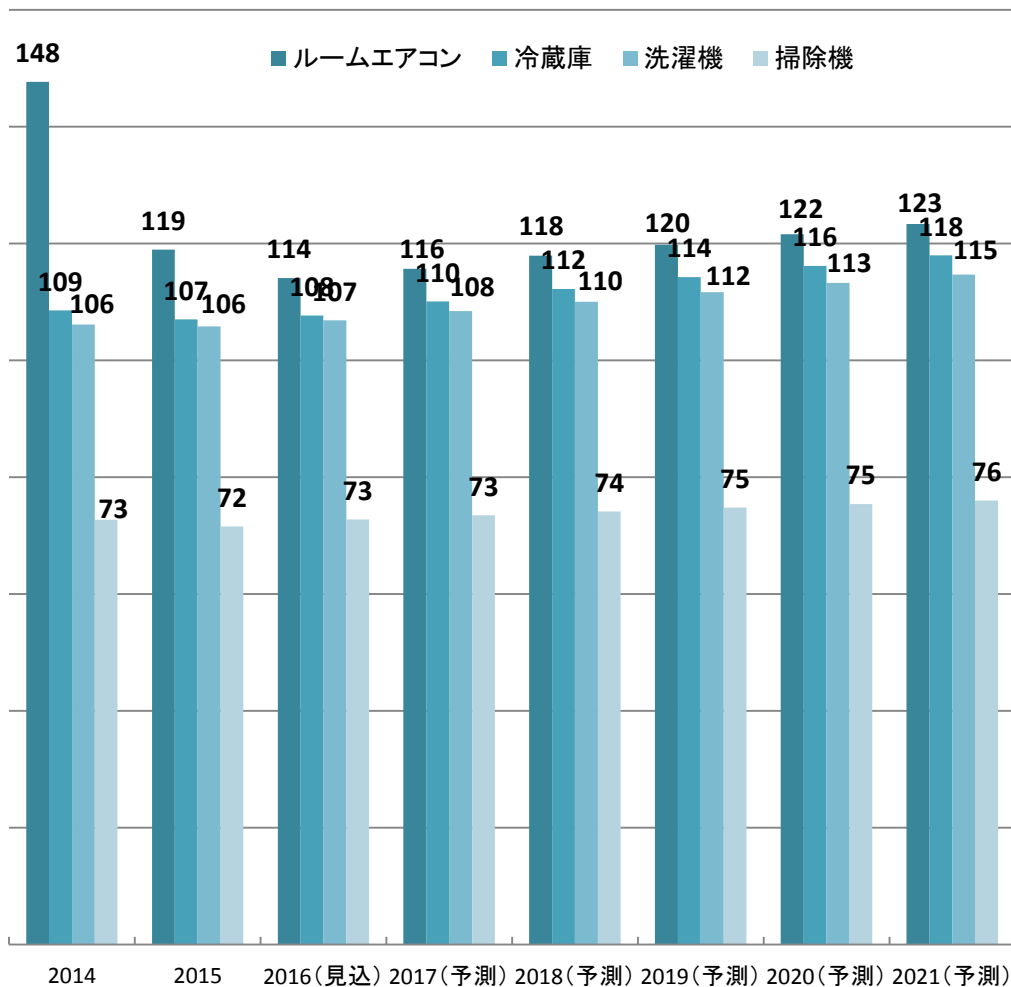
● 当社の見込み

有機ELの製造工程に係る真空蒸着装置などが好調を維持。

出所 株式会社富士キメラ総研

家電製品市場予測

(単位：百万台)



家電市場

■ 2017年以降

中国経済の減速懸念や米国の利上げなどの不安要素の中で、家電業界の再編の動きが継続。

● 当社の見込み

掃除機関連は受注継続の見込み。

出所 株式会社富士キメラ総研

	2017年3月期実績		2018年3月期予想	
売上高	80,542		90,000	
自動車関連	30,267		34,000	
半導体関連	32,289		34,000	
家電関連およびその他	15,165		18,000	
その他	2,819		4,000	
営業利益 (率)	8,247	(10.2%)	9,000	(10.0%)
経常利益 (率)	8,039	(10.0%)	8,800	(9.8%)
親会社株主に帰属する当期純利益 (率)	5,891	(7.3%)	6,000	(6.7%)

事業計画達成のための施策

自動車関連では、トランスミッションなどのパワートレイン関連の生産設備の受注は堅調。低燃費エンジンや次世代車としての電気自動車（EV）などの受注獲得に向け、積極的に対応する。また、半導体関連では、有機ELディスプレイの蒸着装置が継続受注の見込み。

事業拡大が期待できる市場や分野への積極的な展開に加え、コスト競争に対応すべく効率的な生産体制の構築など、グローバルな視点からの最適化と収益性の向上を図る。

1株あたり配当金・配当性向 推移

(単位：円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期予想
1株あたり配当金	12.50	15.00	30.00	100.00	100.00
配当性向 (%)	15.5	16.4	17.5	16.0	15.7

※配当性向は連結ベース

配当予想修正の理由

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しながら安定した配当を継続していくことを基本としつつ、一方で経營業績に応じた弾力的な配当を実施することも肝要であると考えており、業績、経営環境および財務状況等を総合的に勘案した上で決定しております。

上記の方針のもと、通期業績予想を踏まえ、2017年3月期の1株当たりの期末配当金は、前回予想85.00円から15.0円増となる100.00円にいたします。

なお、本件につきましては、2017年6月27日に開催予定の定時株主総会において付議する予定であります。

Ⅲ. 参考資料

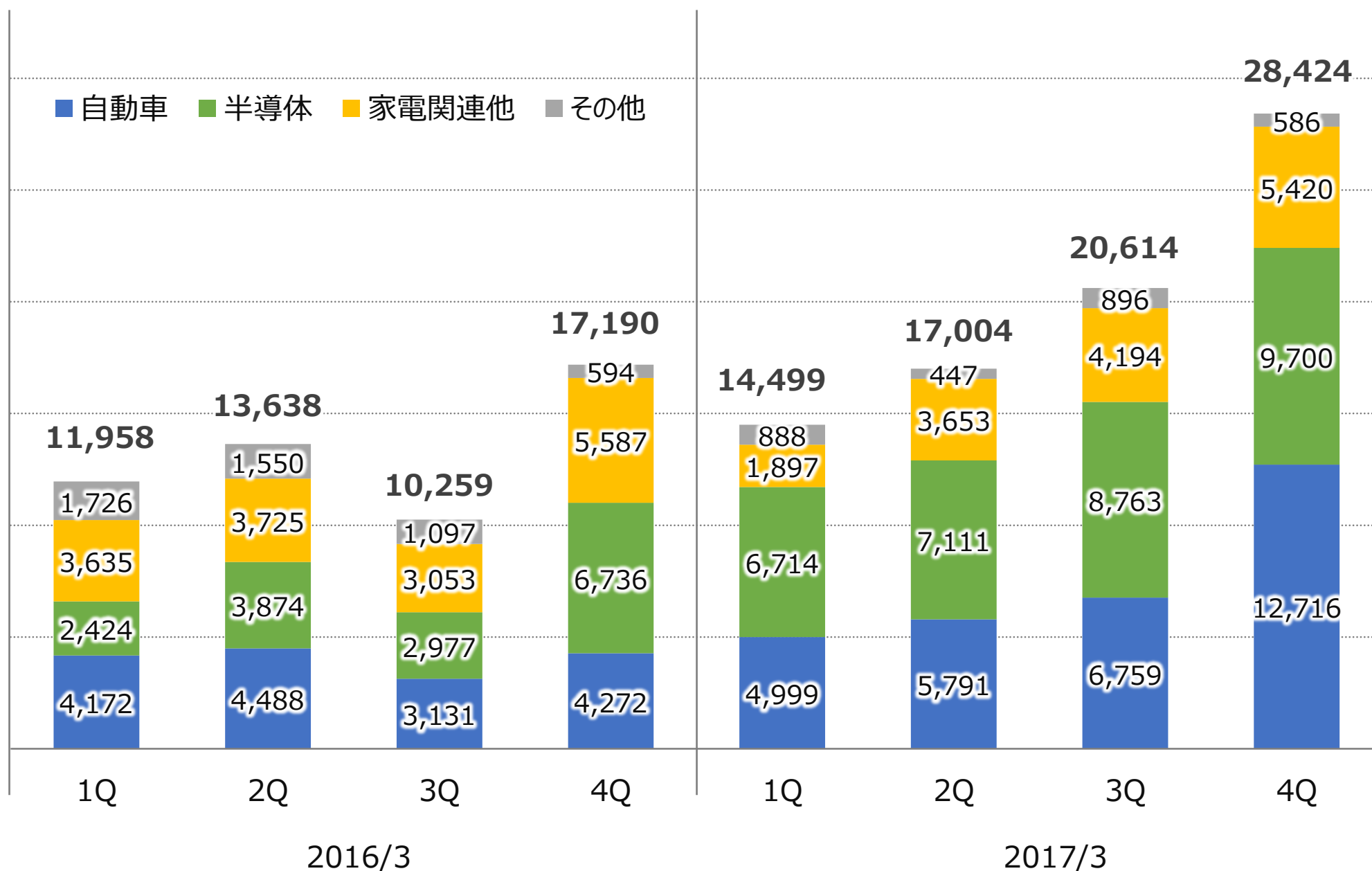
2017年3月期 (2017年3月31日)

Hirata



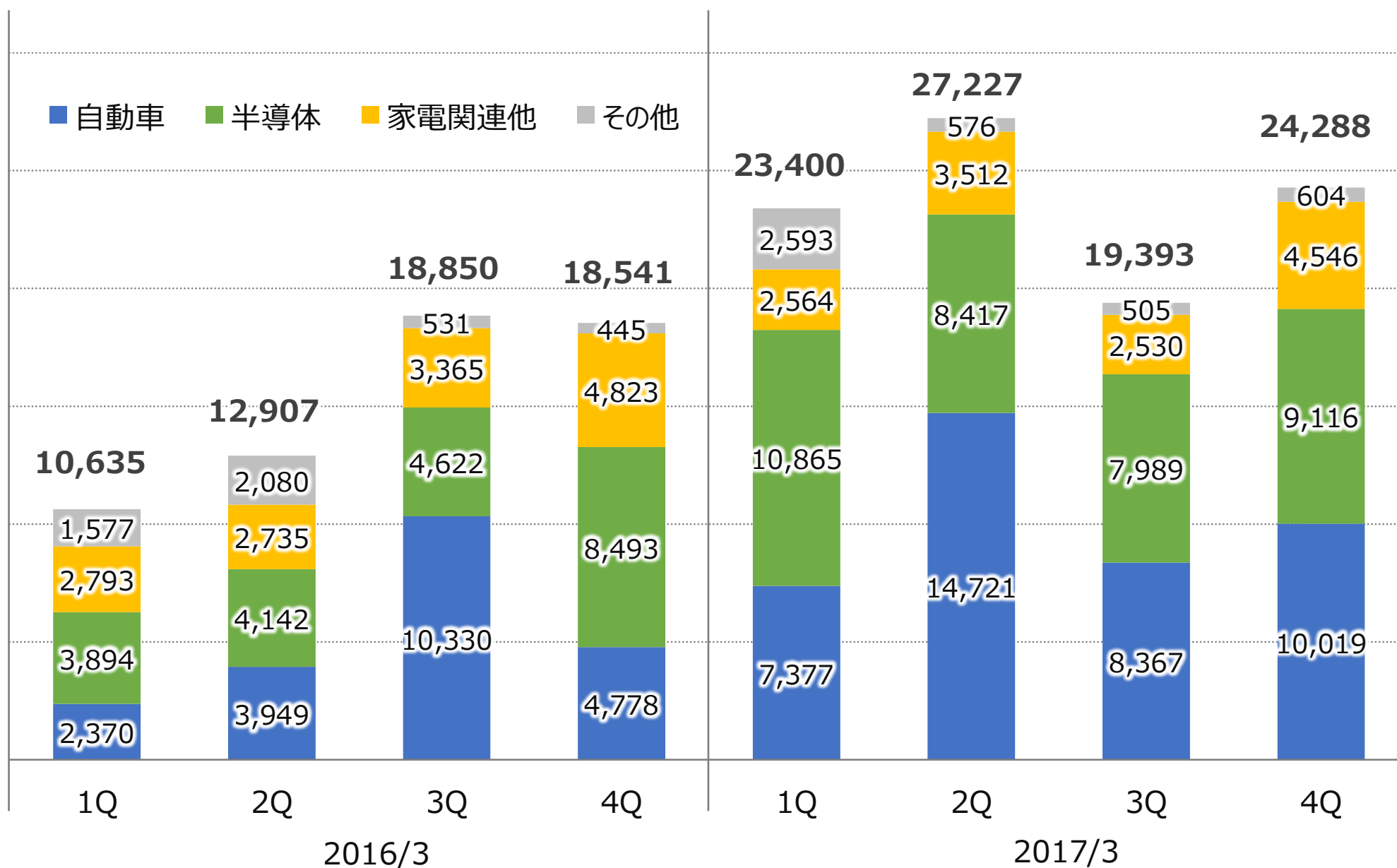
事業部門別四半期売上高の推移

(単位：百万円)



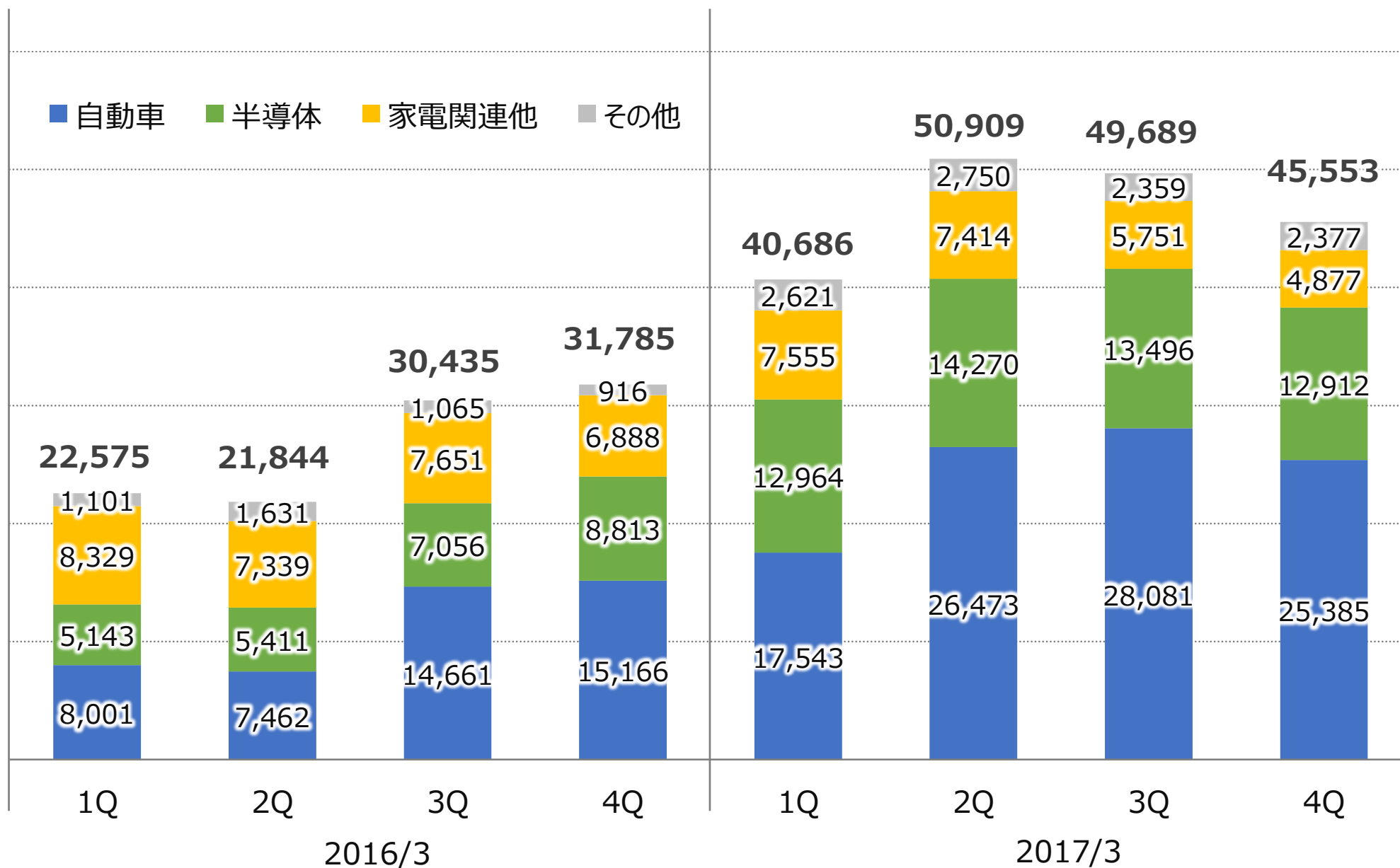
事業部門別四半期受注高の推移

(単位：百万円)

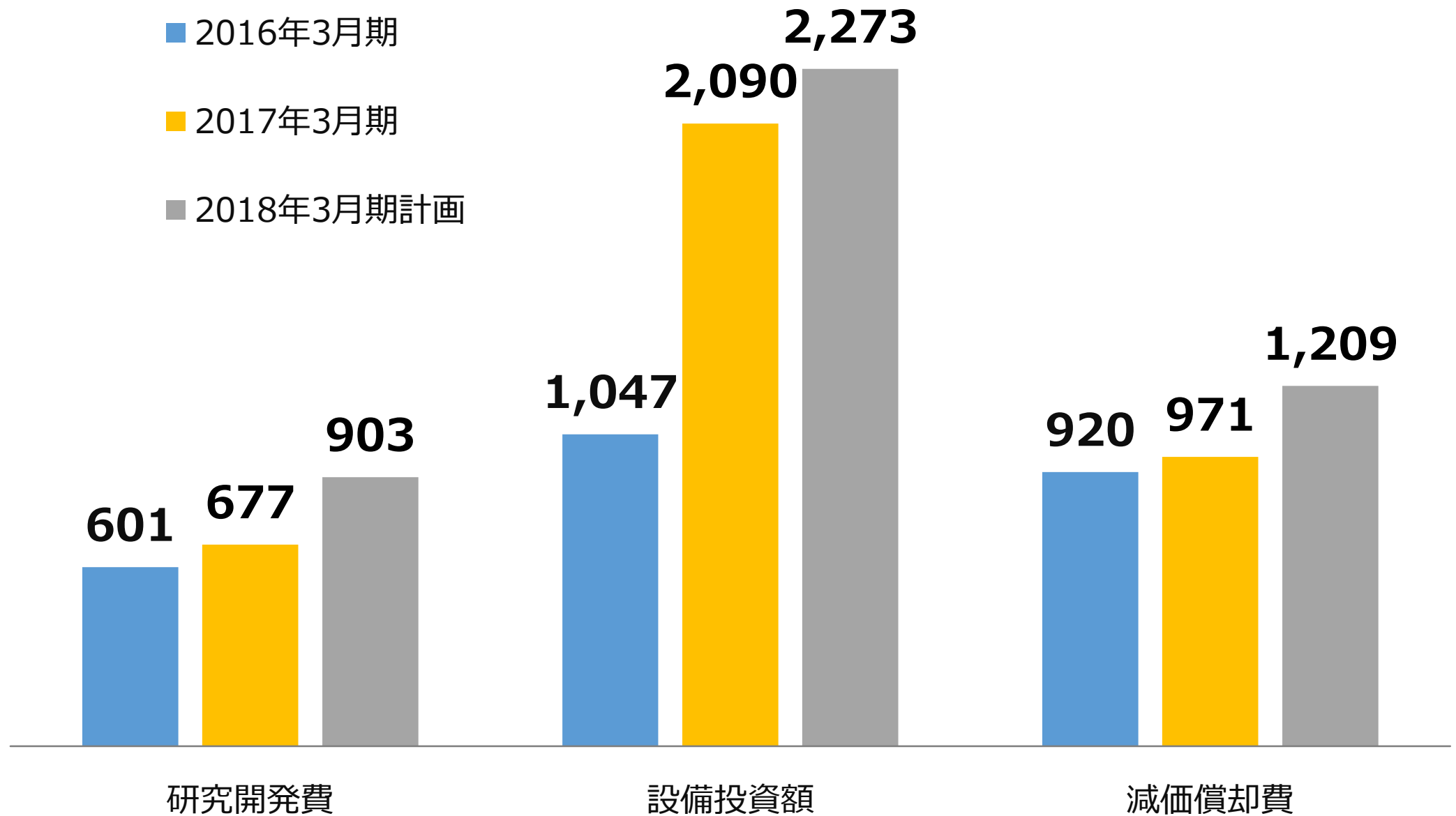


事業部門別四半期受注残の推移

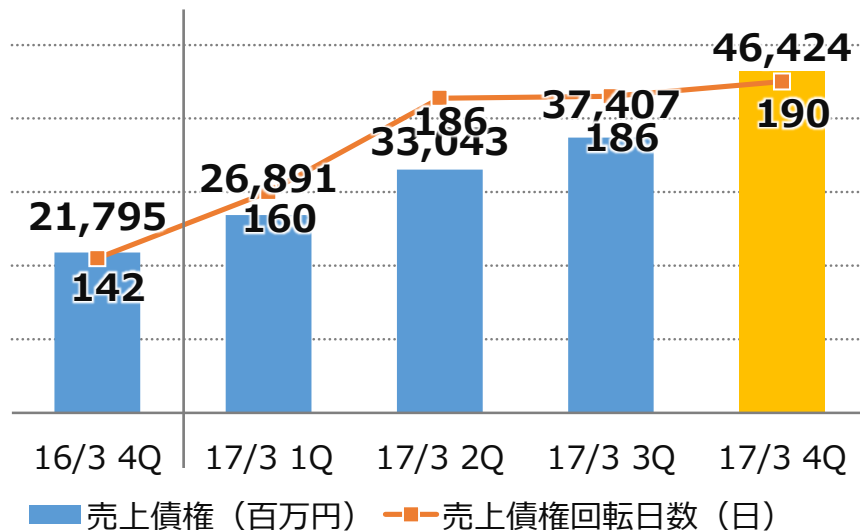
(単位：百万円)



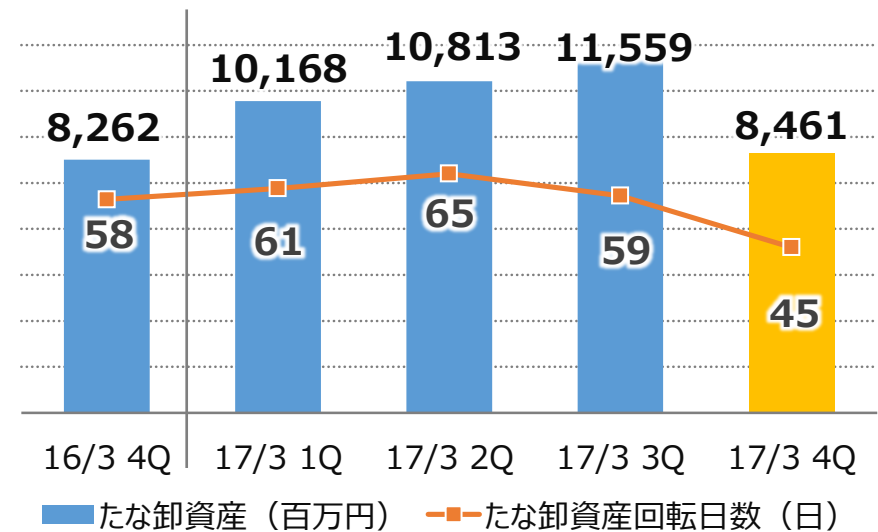
(単位：百万円)



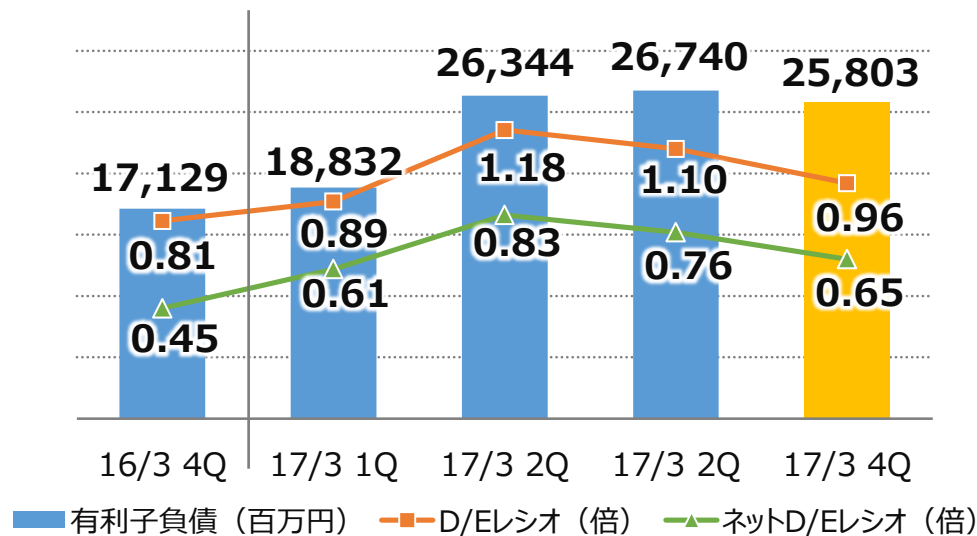
売上債権・売上債権回転日数



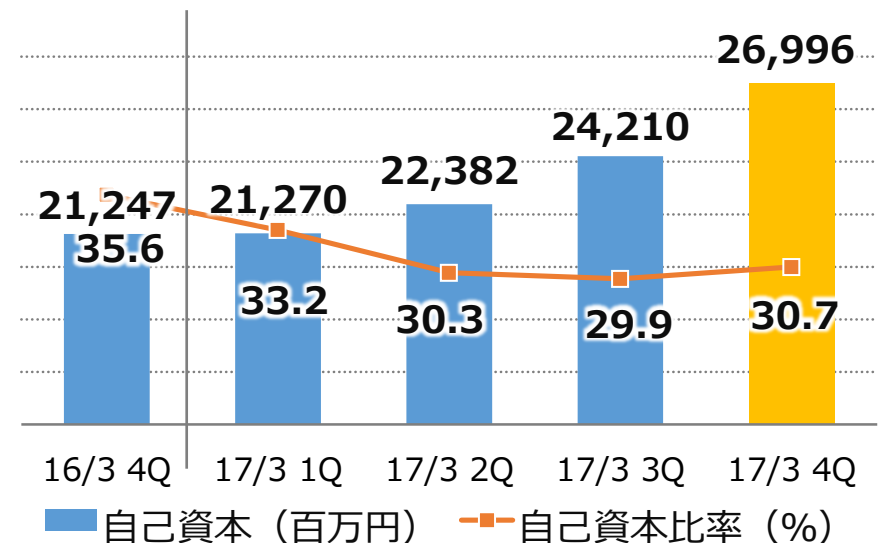
たな卸資産・たな卸資産回転日数



有利子負債残高・D/Eレシオ・Net D/Eレシオ



自己資本・自己資本比率



【注】売上債権回転日数、たな卸資産回転日数については、各四半期毎の期中平均値にて算出しております。

ご注意

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、為替レートなど潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などのさまざまな要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。